

## 令和元年度特定非営利活動法人ゼロ・ウェイストアカデミー臨時総会

### 提案理由説明

特定非営利活動法人“ゼロ・ウェイストアカデミー”継続の必要性について

今年の冬は、今までにない暖冬となりました。地球温暖化による急激な気候変動が、人類はじめ地球上のすべての生命を脅かしていることを身近に実感していることと思います。昨年、国内では台風や局地的豪雨など千葉県を中心に鉄塔の倒壊、河川の氾濫、山腹崩壊、オーストラリアでは、異常乾燥で山林火災が発生、北海道以上の面積が焼失、その後、豪雨で表土が流出し洪水が発生するなど甚大な被害が出ると同時に自然災害が温暖化を加速しています。

徳島県や上勝町でも、何時このような経験したことがない台風や豪雨災害に見舞われるか心配です。

けれども、経済最優先の資本主義社会がこのまま続くと今世紀末には地球の平均気温が4, 8度、日本では5, 4度上昇するとの予測もあります。そうなる私たちの生活はどうなるでしょう。環境省の「2100年未来の天気予報」を見て危機感を持ってほしいと思います。

また、大気や海水、大地がマイクロプラスチックで汚染され、私たちの体内にも蓄積していることがわかってきました。

上勝町は2020年までにごみの焼却をゼロにすることを宣言し、33分別開始から数えて約20年間、行政はじめゼロ・ウェイストアカデミーの努力と住民皆様の熱心なご協力のお陰で、リサイクル率は81%までになりました。しかし、残念ですが100%には手が届きません。

しかし、ここまでの成果が上げられたのは、ゼロ・ウェイストアカデミーの活動も大きな役割を果たしてきたと考えています。

町外を見渡しますと徳島県のリサイクル率は別紙のとおり、四国で最下位、全国でも最低クラスです。

もし、私たちがこれらの市町に移住すれば、その市町村のごみ処理分別に従うことになり、もしも将来市町合併すれば、上勝町のごみ処理も他の市町のごみ処理方式に変わってしまう可能性もあります。

日本では、大型ごみ焼却炉建設に国が補助金を出して大気汚染を助長しています。(2015年の焼却量は、日本4千万t、アメリカ3千万t、ドイツ1千万t)

徳島県は特にリサイクル率が低い上、徳島市ほか5市町の広域ごみ処理計画が進行中でこれが計画通り2026年に完成しゴミ焼却が始まると温暖化ストップ、脱プラスチックの達成はいよいよ難しくなってきます。

同様に県内各地で、広域ごみ焼却炉の老朽化に伴い順次新しいごみ焼却炉導入が計画されようとしています。これは全国各地同じ状況であります。

これにストップをかけるには、国のごみ政策の転換が必要で、デポジット制「資源回収法（仮称）」の制定及び産業構造の転換によるゴミの出ない商品開発を後押しする必要があります。

このことを無くして、上勝町のごみゼロも達成できません。

地球温暖化を防止するためには、温室効果ガスを吸収する森林の確保と管理、木材の有効利用によるCO<sub>2</sub>の固定化、バイオマス発電や小水力発電などの自然エネルギーの研究開発事業促進も不可欠です。

ゼロ・ウェイストアカデミーは、こうした問題を解決し、持続可能な未来を築くため、上勝町という小さな地域社会から徳島県内、全国世界へ働きかけ、ゼロウェイストをリードしていく組織として活動を続けることを使命と考えています。

この目標を達成するには、皆様方が蓄積してきた知識と経験、今日まで活躍してこられました役職員の皆様はじめ会員の皆様、行政、住民皆様のご理解とご協力が必要です。

気が遠くなるような取り組みですが理事の皆様、会員の皆様、町の人、国内外の人々と共に考え行動していく組織として継続して活動していきたいと考えています。

まだまだ十分考え検討した案ではありませんが、3月8日の臨時総会に別紙の方針、事業計画、予算案を提案しますので、格別のご指導とご協力をお願いいたします。

2020年2月22日

特定非営利活動法人ゼロ・ウェイストアカデミー

組織継続有志代表 笠松和市